思考力・判断力・表現力の育成のためのリーディング活動と発表活動のあり方

東京都立武蔵高等学校 佐藤ルミ

1 研究の目的

本校は 2008 年より中学3クラス、高校5クラスの中高一貫教育校であり、ほとんどの生徒が国公立大学への進学を目標とし、英検などの資格取得や海外留学・語学研修などへの関心も高い。学習には素直に取り組むが、学習内容の実生活との関連付けや応用まで至らず、表面的な学習で終わりがちなことも多い。高校卒業後も自立した言語使用者として成長するためには、語彙・文法の習得と同時に、具体的な場面、状況の中で言語を使用して学びを深めてほしい。そのために、中学校段階では授業外でも文化祭での英語劇発表、スピーチコンテストやディベート大会への参加に取り組んできた。高校では教科書の題材を他教科等での学習内容と関連付けて言語使用を体験することで、コミュニケーション手段として英語の技能を身につけるという目標を持って英語学習に取り組んでほしい。

2 研究の内容

(1)教科書本文の内容理解において、クリティカル・シンキングを实践する以下の6つの思考方法を取り入れた言語活動を計画的に行い、思考力・判断力の育成を図る。

6つの思考方法	主な言語活動
1. Point of View (視点)	導入で本文全体を内容把握した後、段落やパートごとにパラグラフ構造を意識しながら主張と論拠を整理しながら理解する。【聞くこと】【読むこと】
2. Evidence (論拠)	
3. Connections (関連性)	本文の内容に関連する自分の知識や経験、ほかの情報や事象を探して、自分の考えとともに伝え合う。【話すこと】【書くこと】
4: Alternatives (別の視点)	本文の論点と異なる視点を考えながら、本文全体を読み直す。【読むこと】
5: Relevance (関係性)	本文の題材が自分たちの現在の生活に与える影響や、自分たちが取るべき行動について調べたり考えたりし、伝え合う。【話すこと】【書くこと】
6: Action (行動)	

参考: FRAMEWORK FOR CRITICAL THINKING: 6 HABITS OF MIND (2019, CONSORTIUM FOR POLICY RESEARCH IN EDUCATION, TEACHERS COLLEGE より)

(2)「総合的な探究の時間」における SDG's 課題研究(本校では「地球学」)の時間と相互に関連付けた活動を行うことによって、研究発表の場面で明瞭な描写や意見の説明を行うための力を養うとともに、思考力・判断力・表現力を向上させていきたい。

3 指導計画の例

(1)科目(単位数)、単元名(教科書名)

コミュニケーション英語 I(3単位)

Lesson7 Biomimetics (Revised ELEMENT I 新興出版社啓林館)

(2)単元の目標

- ・現在完了進行形、関係副詞、形式目的語の it の使い方を理解する。
- ・本文から筆者の主張を的確に読み取り、題材を自分と関連づけて捉え、自分の意見を持つことができる。
- ・自然界に隠れた科学技術のヒントに目を向け、調べたことや考えたことをグループスピーチの形式で発表できる。

(3)6つの思考方法を取り入れた段階的指導の計画(総時数8時間)

時	思考方法	主な学習のねらい	主な活動内容
第1時		<ul style="list-style-type: none"> ・バイオミメティクスの概念を理解し活用例を伝え合うことができる。 ・単元の概要や要点を捉えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の写真を使ってオーラル・イントロダクションを聞く。 ・活用例の写真をペアで説明し合う。 ・全文をリスニングし、内容理解を確認する。(Q&A、True or False)
第2時 ～ 第5時	1. Point of View (視点) 2. Evidence (論拠) 3. Connections (関連性)	(各パート) <ul style="list-style-type: none"> ・新出文法事項や重要表現の意味と形を理解することができる。 ・筆者の主張と根拠を捉えることができる。 ・自分との関連性について考える。 	(各パート) <ul style="list-style-type: none"> ・事前に指定された新出文法事項や重要表現を含む文について、調べてきたことをペアで確認し、教師の説明を聞いて理解する。 ・音読練習の後、筆者の主張と根拠を中心としたリテリングを行う。 ・各パートごとのワークシートの最後にある自分との関連性についての質問に答え、伝え合う。
第6時	4: Alternatives (別の視点)	<ul style="list-style-type: none"> ・単元内容のまとめと文法・表現の使い方を理解することができる。 ・本文全体の論点を整理し、他の事例について調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の課末問題を利用しながら、本文を要約し、新出表現を使う練習をする。 ・本文を読み直し、他の事例について話し合う。
第7時 ～ 第8時	5: Relevance (関係性) 6: Action (行動)	<ul style="list-style-type: none"> ・題材の自己関連性を深め情報や考えを根拠とともにグループで発表し、質疑応答ができる。 ・他グループの発表を聞いて理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4人1グループで「本文の概要(前半・後半)」「バイオミメティクスのほかの活用例」「今後注目されるべき生物」の項目立てを分担した発表を行う。 ・発表に関する質疑応答を行う。 ・ワークシートを用いて自分の発表内容を段落として書く。

4 研究結果と課題

- ・思考方法1と2の段階では、主張と論拠を整理しながら読むことで、ほとんどの生徒が本文の要点を押さえたリテリングをすることができ、思考方法3の段階では、各パートのワークシート内で全生徒が本文に関する自分の考えを英語でまとめることができた。
- ・思考方法4の段階では、本文内容以外のほかの事例をグループで探すことで、本文への理解が一層深まった。
- ・思考方法5と6の段階では、全てのグループがバイオミメティクスと自分たちの生活との関連を十分に捉え、他の応用例や生物について意欲的に調べた発表を行うことができた。
- ・題材への関心や読み取り方は深まった一方、英文の構造や表現への関心や習熟度が同様に深まったかは改善の余地がある。使用語句や文の例を示し、準備時間を十分に確保するなどの工夫で、表現力も同等に向上させていきたい。
- ・今回の単元での発表活動をSDG's 課題研究の英語発表につなげる指導を行っているところである。また、本研究については「6つの思考方法」を教科会で共有したのみに終わったが、今回の研究結果を共有して改善につなげていきたい。